#### (54) FLUORESCENT SUBSTA E CONTAINING PIGMENT AND FLUORE DISPLAY TUBE EXCITED WITH LOW-VELOCITY ELECTRON BEAM

(11) 55-56183 (A) (43) 24.4.1980 (19) JP

(21) Appl. No. 53-128755 (22) 19.10.1978 (71) DAINIPPON TORYO K.K. (72) KATSUZOU KANDA(2)

(51) Int. Cl3. C09K11/22//H01J29/20

ť.

9

PURPOSE: A zinc-containing zinc oxide fluorescent substance coated with a pigment that is made by coating the surface of fluorescent substance film with a specific amount of particles of oxide green pigment of TiO2-ZnO-CoO-NiO, thus being useful as a fluorescent film for fluorescent display tubes excited with low-velocity electron beams.

CONSTITUTION: Said fluorescent substance covered with pigment excited with low-velocity electron beams is obtained by coating the surface of ZnO: Zn fluorescent with particles of oxide green pigment of TiO2-ZnO-CoO-NiO so that the content of the particles becomes 0~35wt% on the basis of the total amount of the fluorescent substance and the particles. The ZnO: Zn fluorescent substance is made by calcining zinc oxide under a reductive atmosphere and the oxide green pigment of TiO<sub>2</sub>- ZnO-CoO-NiO is obtained by fixing the contents of titanium oxide, zinc oxide, cobalt oxide and nickel oxide and the Manufuctruing precedures so that when the reflectivity of magnesium oxide diffusion plate is assumed 100%, the reflectivity in the visible range satisfies the table.

500 001

W: wave length (nm), R: reflectivity (96), 3: or less, a: 15 or less, b: 20 or less, c: 25 or less

#### (54) AGENT FOR PREVENTING DISCOLORATION OF ORGANIC ISOCYANATE

(11) 55-56184 (A) (43) 24.4.1980 (19) JP

(21) Appl. No. 53-130201 (22) 23.10.1978

(71) ASAHI KASEI KOGYO K.K. (72) YOSHINOBU MINAMI(2)

(51) Int. Cl<sup>3</sup>. C09K15/32

PURPOSE: Title agent for preventing the discoloration fo organic isocyanates that is composed of specific organophosphorus compounds, thus preventing the discoloration caused by heating of organic isocyanates that are used for urethane foam, paints, etc., and increasing the storage stability.

CONSTITUTION: To organic isocyanates is added 0.01~2, preferably 0.02~0.3wt% of at least one organophosphorus compound of formula I and II (R is 1~15C alkyl). The compound of formula I is, e.g., diphenylmethyl phosphite, diphenylbutyl phosphite, or diphenylpentadecyl phosphite. The compound of formula II is, e.g., tetraphenyltetramethylpentaerythrityl tetraphosphite, tetraphenyltetrapentadecylpentaerythrityl phosphite.

$$\left(\begin{array}{c} \bullet \\ \bullet \\ \bullet \end{array}\right)_{2} P - R$$

$$\left( \begin{array}{c} \\ \\ \\ \\ \\ \end{array} \right) P O C H_2 + C I$$

#### (54) PRODUCTION OF METALLURGICAL COKE FROM GENERAL-GRADE COAL

(11) 55-56185 (A) (43) 24.4.1980 (19) JP

(21) Appl. No. 53-130240 (22) 23.10.1978

(71) KAWASAKI SEITETSU K.K. (72) TSUNEO KANESHIRO(1)

(51) Int. Cl3. C10B57/04

coke with high strength.

PURPOSE: A modified coal that has been made by heating general-grade coal and a binder over the softening point of the binder to fuse them, a binder are incorporated to a low-fluidity coal in a specific proportion, thus producing said metallurigical coke with high strength.

CONSTITUTION: Previously, a general grade coal and a binder are heated together over the softening point of the binder to fuse them and prepare a modified coal. Then, the resulting modified coal and a binder are incorporated to a low-fluidity coal, thus producing said metallurgical coal. At this time, the mixing ratio of the (binder)/(general grade coal) =  $(\beta - \alpha)/(1-\beta)$ binder to the low-fluidity coal is given as  $\alpha$ , when the strength of the coke becomes maximum; the mixing ratio of the binder to the general coal is given as  $\beta$ , when the strength of the coke becomes maximum; the contents of the low-fluidity coal, the modified coal and the binder are given as X1, X2, and X3 respectively and the amount of the binder and modified coal to be added are determined according to formula I and II and the mixing ratio of the binder in the modified coal and the

general-grade coal is regulated by formula II, thus producing said metallurgical

 $X_2 = /00 (/-a) - X_1$ 

#### PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 55056185 A

(43) Date of publication of application: 24.04.80

| 乾糖盤 | / (一教教) == ( / )

(51) Int. CI	C10B 57/04		
(21) Application	number: 53130240	(71) Applicant:	KAWASAKI STEEL CORP
(22) Date of filing	g: <b>23.10.78</b>	(72) Inventor:	KANESHIRO TSUNEO MUROKI YOSHIO

# (54) PRODUCTION OF METALLURGICAL COKE FROM GENERAL-GRADE COAL

#### (57) Abstract:

PURPOSE: A modified coal that has been made by heating general-grade coal and a binder over the softening point of the binder to fuse them, a binder are incorporated to a low-fluidity coal in a specific proportion, thus producing said metallurigical coke with high strength.

CONSTITUTION: Previously, a general-grade coal and a binder are heated together over the softening point of the binder to fuse them and prepare a modified coal. Then, the resulting modified coal and a binder are incorporated to a low-fluidity coal, thus producing said metallurgical coal. At this time, the mixing ratio of the binder to the low-fluidity coal is given as  $\alpha$ , when the strength of the coke becomes maximum; the mixing ratio of the binder to the general coal is given as B, when the strength of the coke becomes maximum; the contents of the low-fluidity coal, the modified coal and the binder are given as  $X_1$ ,  $X_2$ , and  $\mathbf{X}_{\mathbf{3}}$  respectively and the amount of the binder and modified coal to be added are determined according to formula I and II and the mixing ratio of the binder in the modified coal and the general-grade coal is regulated by formula III, thus producing said metallurgical coke with high strength.

COPYRIGHT: (C)1980,JPO&Japio

### (19) 日本国特許庁 (JP)

① 特許出願公開

## ⑫ 公 開 特 許 公 報 (A)

昭55-56185

⑤ Int. Cl.³C 10 B 57/04

識別記号

庁内整理番号 6946--4 H ❸公開 昭和55年(1980)4月24日

発明の数 1 **〇PY** 審査請求 未請求

BEST AVAILABLE COPY

(全 6 頁)

**劉一般炭を配合した冶金用コークスの製造方法** 

②特 願 昭53-130240

②出 願 昭53(1978)10月23日

⑫発 明 者 金城庸夫

習志野市袖ケ浦6の14の22

⑫発 明 者 榁木義夫

千葉市土気町1788の11

⑪出 願 人 川崎製鉄株式会社

神戸市葺合区北本町通1丁目1

番28号

⑪代 理 人 弁理士 杉村暁秀

外1名

明 細 實

/発明の名称 一般炭を配合した冶金用コーク スの製造方法

#### 2. 特許請求の範囲

$$X_3 = /00 \alpha$$
 ......(1)

#### 3. 発明の詳細な説明

本発明は低流動性配合炭に一般炭を配合して治金用コークスを製造する方法に係り、特に低流動性配合炭に一般炭を配合するに際し、予め一般炭に粘結剤を加熱・融着して改質し、該改質炭と粘結剤とを上配低流動性配合炭に配合して高強度の治金用コークスを製造する方法に関するものである。

る。とのような状況の下にあつて、 流動性の不足した配合原料炭に、更に流動性のないかあるいは乏しい劣質炭の配合が可能となれば、コークス製造における原料の確保について業界の要望に応え得ることになる。

コークス用原料に劣質炭を使用する従来技術としては、成型炭ー部装入法、成型コークス法とび改質炭法等があり、流動性の補塡としては、アスファルト添加法および石炭ピッチや石油ピッチでもにはこれらの改質物を添加する、所謂憑背物による流動性向上が計られていたが、粘結剤に特別な性状が要求されること等によつて必ずしも満足される技術とはいえない現状である。

本発明は上記従来技術の問題点に鑑みて、低流動性配合炭と一般炭との各配合量と流動性に応じて、最適コークス強度を保持させるに必要な量の粘結剤を配合し、しかも夫々が別々に作用させるように添加して、低流動性配合炭と一般炭とが夫表適コークス強度になるようにして全配合炭の

3

質物などの歴育物、ならびに溶剤で石炭を膨潤さ せた彫構炭および高温高圧で石炭を水添抽出した 改質炭などが使用される。また最大のコークス強 度となる粘結剤の配合量は粘結剤の種類、一般炭 種おるび乾留条件などに左右されるが、これらが 一定であればコークス強度に関して極大値を示す 最適粘結剤配合量が存在する。そしてとの極大値 よりも粘結剤の配合量が少なくても又多くても強 度は低下するのが普通であるが、粘結剤固有の強 度が高い場合は B 曲線に示したように極大値は存 在せず、粘結剤の配合量が多くなるに従つて単調 に強度が上昇する場合もある。とのような粘結剤 は一般炭との組合せによる粘結剤としてよりも、 むしろ強粘結炭の代替に人造粘結炭として単独で 配合に用いられるととが多い。一般炭を大量に用 いるには前記極大値がなるべく第ノ図において左 方に存在することが望ましい。ことではB曲線型 の粘結剤を除く必要は勿論ないが、一般炭を大量 に使りと言り点から A 曲線型粘結剤について説明 する。一般炭と粘結剤の混合方法は、予め粘結剤

コークス強度を向上させるものである。

一般に粘結性を有するかあるいは粘結性に乏しい労質炭の所謂一般炭に粘結剤を配合してコークス化すると、第/図に示すように単味一般炭では得られない強度のコークスが得られる。なお粘結剤にはアスフアルト、タール、ピッチ、重質油改

4

の軟化点以上の温度で一般炭と粘結剤とを融着させた場合も、両者を粉砕混合しただけで融着させない場合も、一般炭と粘結剤との二種配合では大差なく、何れも第/図に示した強度曲線の傾向を示す。

次に多種原料炭を配合した通常品位の配合炭に対して、高流動性炭(ギーセラー流動度数千DDPM以上)を配合しないかあるいは少なくするか、又は流動性の乏しい原料炭を加えると、配合炭全体の流動性を低下させた所調低流動性配合炭となる。この操作は、国内炭や米国中揮発分炭のような高流動性炭の資源の潤あるいは価格上の問題で、このような操作を採つた方が得策と考えられる場合に必要となる措置である。

とのような低流動性配合炭のコークス強度に影響を与える配合炭の流動性は第2図に示したように、ギーセラー流動度 200 DDPM 以上の場合は流動性が変化してもコークス強度への影響は少ないが、 200 DDPM 以下では流動性が低下するにつれてコークス強度も低くなる傾向がある。従つて通

常操菜でコークス炉に用いる配合炭は 200 DDPM 以上となるように原料炭を配合してコークス強度を維持するようにしている。本発明で言う低流動性配合炭とは、 200 DDPM 以下の流動性を示す配合炭を指しているのである。 200 DDPM 以下であれば、特に規制を設ける必要はない。

7

ことが出来ない。一般炭の場合は、配合炭中に占める一般炭の均一性および粘結剤の一般炭に対する集中的な作用が問題となる。一般炭が、配合時に配合炭並みの軟化溶融特性を保持するように改質されている場合は、均一性は配合炭並みでよいことになる。

る粘結成分があるからであつて、粘結成分の全く たいかあるいは乏しい一般炭に比べて母適粘結剤 添加量は少なくてよいからである。 このように母 適粘結剤添加量に相違があるために、一般炭を用 いた配合においては、粘結剤の添加を一般炭の部 分と配合炭の部分とで区別しなければ、母良のコ ークスを得ることは出来ない。

低流動性配合炭に一般炭と粘結剤とを配合する 場合は、その配合方法によつて効果に差異が生じ る。

させるために配合する粘結剤を増量すれば、低流動性配合炭の部分は流動性が最適となったとしてもこの量では軟化溶験性の全くないかあるいは乏しい一般炭の部分には尚粘結剤は不足の炭の部分には尚粘結剤の配合量を増して、一般炭の部分には過剰となりコークス強度は知って低下して、やはり全体としては充分な強度は補償できないことになる。

また、一般炭と低流動性配合炭とが必要とする合計量の粘結剤を、予め粘結剤の軟化点以上の温度で一般炭に融着させて、一般炭に染中的に粘結剤が作用するようにしたものを配合した場合でも粘結剤の配合炭中への拡散は充分均一であるとは盲えないで、最適強度のコークスを得るという点からは尚不充分である。

更に上記のことを第3図について説明すれば、 A 曲線の最適点での粘結剤添加を、一般炭を含む 全配合炭に対して同率に添加したのでは、低流動 性配合炭のコークス強度は補償されるものの、一 表の低流動性配合炭の配合を 20 部とした時の改 質炭かよび粘結剤の配合割合を求めると、粘結剤 Aの場合は第3表の K3のようになり、粘結剤 B の場合は第3表の K4のようになつた。

ル3の配合では、使用した粘結剤の総量は 10 部であつた。この粘結剤の全量を一般炭と組合せて改質炭とした場合をル4に、また改質炭とせずに失々を別個に配合した場合をル5に示した。同様に、粘結剤Bの場合をル7とル8とに示した。なかん1は第2表の配合組成の標準配合炭、ル2は低硫動性配合炭のみの場合である。

これらの配合組成の配合炭を用いた JIS 法による缶焼試験の結果を第 3 表の右欄に示した。 この結果、本発明の方法の配合法によらない場合は、低流動性配合炭に一般炭と粘結剤とを個々にあるいは改質炭として配合しても、低流動性配合炭の強度水準(1/6/2) 以上には達するものの、 概準配合炭の水準(1/6/2) には及ばないことがわかる。しかし本発明の方法による配合法を用いれば標準配合と同等かあるいはそれ以上のコークス強度を

15

第 3 表

班目		コークス					
	低流動性	米中	ev H	粘結剤	改复炭		強度
Aá \	配合炭	揮発分炭	- <b>XX</b> (X	ACTIVE VI	一般炭	粘結剤	DI 30
/	80	20	_	_	-	_	92.8
2	100	-	-	_	-	-	90.9
3	70	_	_	6	20	4	93.1
4	70	-	-	_	20	10	92.6
5	70	_	20	10	_	-	92.2
6	70	_	_	10	15.5	4.5	92.9
7	70	_	-	_	15.5	14.5	92.5
ъ	70	_	15.5	14.5	_	_	91.9

得るととが出来た。

寒 1 表

	工菜	分析(MF)	元	梨	分	析	(MAF)	ボタン	クレゾール
	灰分	揮発分	С	н	N	s	0	指数	不容分(MF)
一般炭	7. 0	35.9	80.4	5. 2	2.6	0. 5	11.9	2	_
粘結剤 A	0. 1	58. 1	88. 6	5. 6	1.5	0. 3	4. 0	_	5. D
粘結剤 B	8. 1	45.1	87. 7	5. 2	0. 9	0.6	5. 5	3	40.0

第 2 衰

		ă	己合	組	成		ギーセラー
		米国低	米国中	強	準強	弱	流動度
		揮発分炭	揮発分炭	粘結炭	粘結炭	粘結炭	DDPM
	標 準					,	
	配合炭	10	20	25	20	25	250
į	低流動性						
	配合炭	10		25	20	25	120

. 16

本発明は以上に説明したように、 冶金用コークスの製造に際して、 将来にわたり高流動性炭の供給不足、 さらには原料炭資源の涸渇傾向に対して、 低流動性原料炭対策のみならず、 一般炭を配合するととも可能にしたものであつて、 原料炭源の拡大をはかるととが出来る極めて有用な発明である。 《図面の簡単な説明

第/図は一般炭にAとBの品質の異なる粘結 剤を配合した場合の粘結剤配合量とコークス強度 との関係を示す図、第2図はギーセラー流動度と コークス強度との関係を示す図、第3図は低流動 性配合炭(A) かよび一般炭(B) に対する粘結剤の配合 比とコークス強度の関係を示す図、第4図は本発 明の方法のフローシートである。

/ … 低硫動性配合炭、 2 … 一般炭、 3 … 粘結剤、 4 … 各種原料炭、 5 … 加熱融音装置、 6 … 改質炭、 7 … 混合装置、 8 … コークス炉。 般炭の強度水準は最適ではなく低いために、全体としてコークス強度の向上は計れない。また、B曲線の最適点での粘結剤添加を上記同様にして添加したのでは、一般炭の部分のコークス強度は結剤が過過されるが、低流動性配合炭の部分は粘結剤が過過となつてコークス強度の向上が却つて不足しの他としてのコークス強度は充分でない。そのはお前の添加では、低流動性配合炭、一般炭共に充分なコークス強度を示すことが出来ずに不分である。

すなわち、一般炭は低くても粘結性を保持している低流動性配合炭よりも、最適強度のコークスを得るための粘結剤を多量に必要とし、両者の必要粘結剤量が異なるために、低流動性配合炭中に粘結剤と一般炭とを単独で配合したり、あるいは一般炭と粘結剤とを一体化したもののみを配合して、全体のコークス強度を高めようとする場合には何れる不適当である。

上記のととから、本発明では第4図に示すよう

//

(粘結剤)/(一般炭) = (β-α)/(/-β) ········ (5) となる。ここで

α=(最適粘結剤配合量)/{(最適粘結剤配合量) +(低流動性配合炭配合量)}

β=(最適粘結剤配合量)/((最適粘結剤配合量)+(一般炭配合量)}

以上のことから最適配合方法としては、先づ低流動性配合炭シよび一般炭の各々に粘結剤を加え、粘結剤の最適配合比α, βを天々求め; (2), (3)式によって、融籍させる一般炭量と粘結剤量とを算出して、改質炭 X2 を製造する。

ついで(1)式によつて配合する粘結剤量 X s を算出し、 X 1 量の低流動性配合炭、 X 2 量の改質炭 および X 3 量の粘結剤を混合し、コークス用原料とすることによつて、これらを用いた時の最適強度のコークスを得ることが出来る。

次に低流動性配合炭、改質炭および粘結剤の配合量を最適とする配合方法について以下に説明する。

低流動性配合炭、改質炭および粘結剤の配合量を夫々 $X_1$ , $X_2$ , $X_3$  とし、低流動性配合炭および一般炭に粘結剤を加えて最高のコークス強度を示す粘結剤の最適配合比を夫々 $\alpha$ , $\beta$  とし、また $X_1+X_2+X_3=100$  とすれば、粘結剤配合量  $X_3$  は次の通りである。

' /2

なお、 $X_2=0$ の時はコークス用原料として改質 炭を用いず、低流動性配合炭と粘結剤のみを配合 した場合であつて、 $X_1=0$ の時は改質炭のみある いは改質炭と粘結剤、又は一般炭と粘結剤のみを コークス用原料とする特別の場合を示すものである。

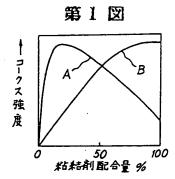
次に実施例について、本発明の方法を具体的に 説明する。

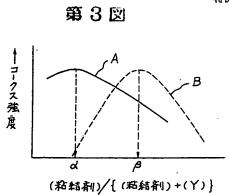
#### 実 施 例

本実施例に用いた一般炭と粘結剤の特性値を第 1 装に示し、標準配合炭および低流動性配合炭の 配合組成ならびに流動性を第2 裂に示した。

第1 袋の粘結剤 A および粘結剤 B と第2 表の低流動性配合炭との組合せて、第3図の関係のコークス化性試験から求めたαは夫々 0.06 および 0.10 であつた。同様にして第1 袋の粘結剤 A および粘結剤 B と一般炭との組合せて、第3図の関係のコークス化性試験から求めた B は天々 0.2 および 0.3 であつた。

とのα,βと(1)式、(2)式および(3)式から、第2





Y: 低流動性配合炭(氨镍) または一般炭(板線)

